

午後Ⅰ試験

問1

問1では、新たな事業を実現するためのシステム開発プロジェクトを題材に、不確実性の高いプロジェクトにおけるプロジェクト計画の作成やリスクへの対応について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問2(2)は、正答率が低かった。単にG社に足りない技術や知見の獲得を狙った解答が散見された。新事業の実現のためには、個々のメンバが変化を柔軟に受け入れ、多様な知見を組織として活用する必要があることを読み取って解答してほしい。

設問3(2)は、正答率がやや低かった。事業部のメンバとシステム部のメンバが、それぞれの役割を組織の枠内に限定して考えている状況をよく理解し、組織として一体感をもってプロジェクトを進めるためには、事業部とシステム部のメンバを混在させたチーム編成にする必要がある点を読み取って解答してほしい。

問2

問2では、顧客満足度（以下、CSという）を向上させるというプロジェクトを題材に、プロジェクトの特徴に合わせたマネジメントプロセスの修整とプロジェクト計画の作成について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、正答率がやや低かった。プロジェクトの違いを踏まえてマネジメントプロセスを修整する必要があることを理解しているかを問うたが、“プロジェクトの目標達成に必要な体制を整備する”、“要件の変更や追加に迅速かつ柔軟に対応できるようにする”、という解答が散見された。過去のプロジェクト計画を参照し、適用する意味に着目してほしい。

設問2(1)は、正答率がやや低かった。改善プロジェクトから提供してもらう必要がある情報は何かを問うたが、“CS向上の効果”や“優先度付けの情報”という解答が散見された。これは、CS向上ワーキンググループと改善プロジェクトの役割を区別できていないからと考えられる。プロジェクトにおけるステークホルダの役割と追加する情報の利用目的を正しく理解してほしい。

問3

問3では、マルチベンダでのシステム開発プロジェクトを題材に、過去の教訓を踏まえたプロジェクト計画の作成について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1(2)は、正答率は平均的であったが、“X社とY社のスケジュールが調整できること”や“X社とY社の仕様の認識相違を防ぐこと”などの解答が散見された。“ステークホルダマネジメントの観点”という題意に沿って解答してほしい。

設問2(1)は、正答率が低かった。マイルストーンを明示していない解答や“手戻りを想定した接続機能に関する工程の早期着手”など、マイルストーンを意識していない解答が散見された。過去のプロジェクトでの問題を回避するために、各工程で何をマイルストーンとし、どのような工夫をしたのかを解答してほしい。

設問3(2)は、正答率が低かった。“コンティンジェンシ予備費の増額”とした解答が多かった。想定外のリスクへの対応であること、対策をCIOに相談していることを踏まえて解答してほしい。